

## 令和6年度 第1回 松江市ものづくり振興会議

### 【議事要旨】

1. 日時：令和6年8月22日(木)14:30～16:30
2. 会場：松江商工会議所 2階 大集会室 ・ Zoom
3. 出席者

#### (1) 委員

##### 【出席委員】

児玉委員、金崎委員、谷口委員、金築委員、湯野川委員、内藤委員、福頼委員、松崎委員、大屋委員、田立委員、天崎委員、小松原委員、松浦委員、田代委員、松本様（代理出席 青戸委員）、荒田委員、竹下委員、野村委員

##### 【オンライン出席委員】

高橋委員、山中委員、壽山委員

##### 【欠席委員】

田中委員、柏井委員、北村委員

##### 【事務局】

桑垣部長、大谷センター長、飯塚係長

#### 4. 議題

##### 【次第】

- (1) 開会挨拶
- (2) 議事

##### 【報告事項】

- ① 「令和6年度ものづくりアクションプラン事業進捗」について
- ② 「中海・宍道湖・大山圏域ものづくり連携事業」について

##### 【協議事項】

- ③ 改定版「第5期ものづくりアクションプラン（案）」について
- (3) その他
- (4) 閉会

#### 5. 議事

##### 【報告事項】①について事務局から説明

<質疑・意見>

なし

### 【報告事項】②について事務局から説明

<質疑・意見>

なし

### 【協議事項】③について事務局から説明

<質疑・意見>

○谷口委員

- 本会議について

毎回思うことであるが、せっかくこれだけの皆さんがわざわざ出てきてらっしゃるので、それぞれご意見を伺う時間をとっていただきたいと思っている。検討をお願いします。

- IT化DX化について

今回の資料の44ページには、現行のIT等導入支援から来年度はデジタル化促進支援という名前に変わるという案が提示をされていたが、IT化DX化の支援については、私は2通りあると思っている。

IT化はある程度の企業が既に実施していると思っている。そうすると今のこのIT支援で必要なことは、新たに全く新しいことをするというところというよりは、むしろ現在あるシステムをグレードアップする、または、改修するという事業への支援が必要ではないか。

まだIT化を始めておられないところは、セミナーや相談会のようなことをいくらやっても難しい。IT化することでどういう結果が出るのかということまで突っ込んでおせっかいをしないとなかなかIT化は進まないと思う。ITOCや松江市でもアドバイザー支援ということをやっておられるが、私もITOCへ何回か相談したことがあるが、相談して話すだけで、それ以降は自分で解釈して勉強していかないと進められない。

アドバイザー制度も同様で、とても難しいことかもしれないが、その辺のおせっかいをどのようにするかが重要だと思う。

また、IT化の補助金は国と県と松江市のものがあって、松江市なりの支援のあり方を考えておられるかどうか重要である。

島根県内では、鉄鋼とか金属加工とかそういった分野の製造業が多い。私が調べたところでは、島根県内の製造業の付加価値額は、鉄鋼、金属や機械等製造が66.3%を占めている。松江市の場合は本日の資料の26ページに付加価値額の数字が載っていたが、輸送用機械、金属製品、電子部品・

デバイス・電子回路や生産用機械器具を合計すると 48%となる。つまり松江市は、ものづくり企業の中でも機械金属等の製造業よりもその他の製造業の方が圧倒的に多いということである。

島根県の助成金だと例えば、機械金属、樹脂、電気及び電子部品等の製造を行っているもののように製造業の中でも対象を絞っている。松江市はこうした松江市の特徴を考慮した支援を実施すべきだと思う。

#### ○大谷次長

谷口委員がおっしゃられるように、本日はご意見を頂戴する会であるため、それぞれの委員のご意見への回答はまた後日させていただき、本日はご意見を頂戴しようと思う。

#### ○児玉委員

- 島根県及び松江市の経済状況について

付加価値の話があったが、令和 2 年から 3 年間で島根県の経済は 1 人当たりの生産性が 3 割ぐらい上がっている。今年も増えているということであれば、5%や 6%の賃上げ率に問題はないと思うが、実際は、生産性が上がっているという要因が、おそらく補助金太りということがあるのではないかと思う。松江市の 1 人当たりの付加価値額を計算したら 952 万円となるが、これが本当かどうかということ。それで全国的には、例えば愛知県においては、製造業の 1 人当たりの付加価値額が 1500 万となっているので、少なくともそれより 3 割低いという状況である。

この中で人材の流出をいかに落としていくか、防いでいくかということであるが、やはり生産性を上げるしかないだろうと思っている。その中でやはり今政府が今骨太でやっているような取引適正化、いわゆるコストアップのものを単価に反映させて、それによって、生産性を上げて、賃金上げていくという方法が良いと思っている。

- 人材確保について

9 月から高校等の就職活動が始まり、当社にも応募が来て欲しいと思っているところである。実際のところは高校生も中学生の段階からどのようなところに就職しようかということを決めていることが多く、私たちから見ればモラトリアムの世代というのがなくなってしまうと、かなりシビアな学生が多くなってきたということを聞いている。

松江市でも来年の 1 月 21 日に、製造業のみではないが、中学生を対象とした職業体験のイベントを実施する予定である。松江市から 1000 万円支援していただいて、商工会議所が主体になって実施するイベントで、様々な企業の仕事の体験ができるようになっている。

日頃、中学生とか高校生が、何とか自社を見に来てくれて、仕事の内容でも体験してくれたらもっと魅力は伝わるはずだと思っている方は、ぜひともこのイベントに出তেいただいて、中学生にもものづくりのモチベーションを上げていただくというようなことをしていただきたいと思う。

#### ○松崎委員

- 次期アクションプラン全般について

今回資料を拝見して思ったのが、今のアクションプランの補助制度について、これの何が課題だと捉えていて、それを新しいアクションプランの中でどう変えようとしているのかということが、ちょっとはっきりしてないという印象を受けた。

例えば、今の松江市内企業の景況感が上向きになっており、投資意欲も旺盛だというような分析がされていて、この5年間の間にコロナ禍を経て、それからこのアクションプランの最終年度になって、大きく上向きになっているという結果になっている。

そうであれば、次のアクションプランというのは、それをもっと後押しできるような制度作りをしていかなければならないのではないかと思う。次期の補助制度案の中身を見ると、現在のものとそんなに変わらず、名前を変えただけというような印象を受けた。設備導入支援などはおそらくもっとニーズはあると思うが、できれば補助率それから補助上限を上げ、企業の支援をしていただければと思っている。

また、当社では、これからもっと新しい製品を作って新しい市場に打って出ようと考えているところであるが、新製品を開発するにしてもやはり設備が必要であり、資金の部分で非常に躊躇するところもある。現在の新製品開発の補助制度についても、補助率が非常に低いにもかかわらず、新しくこういう新製品開発支援という制度になって、活用する人が増えるのかというのが率直な意見である。当社でも新製品開発は7年8年にわたってやっているものがあるが、単年度の補助金は利用ができない。往々にして、新しい製品の開発や新しい市場へのチャレンジは、数年にわたることもあるため、そういった数年にわたる取り組みに対する支援も盛り込んでいただきたい。

- 松江ものづくり.netについて

松江ものづくり.netについてであるが、これは一体誰を対象にしたページなのか分からない。以前当社の新製品を何回か掲載していただいたが、正直なところ、効果があったのか分からないという印象を持っている。今回のアンケート調査を拝見したところでは活用されている方が結構いらっしゃるという答えになっている。私が活用の仕方が分かっていないのかもしれないが、松江ものづくり.netのあり方というのをもう一度考えるべきではないか。

## ○金築委員

- IT化DX化について

ITとかDXというのはとてもハードルの高いものだと感じていらっしゃる企業が多いのではないと思う。また、IT機器の導入は既に進んでいるかと思うが、そもそも機器を入れたことにより業務改善されて、生産性が上がっているのかどうかを、なかなか実感できていない企業もいるのではないかと考えている。

私が他の企業とかかわる中で、そもそも大きなコストをかけて機器を導入しなくても、日頃の業務を見直していくことで、生産性が上がる部分がたくさんあると感じている。

次期アクションプランの中で、ITOCの制度を利用して相談というのがあったが、もしかしたら、相談ですらハードルが高いと思われる企業もいらっしゃるのではないかという気がしている。こんな専門的なこと相談をしても良いのか、具体的な案も何もないのに相談しても良いのか、というよ

うな方もいらっしゃるのかもしれないので、もう少し敷居が低い抛り所のような支援があれば良いと思っている。

- 人材確保について

地元就職の希望の人は増えているけれども、そもそも就職をするという方、高卒で就職する方がかなり減ってきている。専門高校の中でも半数を切っているような状況である。そんな中で、今後の採用活動はますます厳しくなると思うが、いくつかの製造業さんを見させていただくと、その会社の情報発信があまり充実していないというように感じている。すごく熱心に採用活動されている企業は、若い方に向けた情報を発信されていると思うが、実際に若い人たちが働こうと思ったときに、知りたい情報がちゃんと伝わっているかというのが重要である。製造業の企業においては、例えばホームページ1つとってもそのような内容が見えてこないところが多く見受けられるような気がしている。

採用に向けた動画の話とかの話もあったが、若い人はおそらくまず企業の名前を見たら Web サイトで検索して、その企業がどんな企業なのか、どんな人が働いているのかということを見て、そこからまた就職検討の次のステップに進んでいくのだと思う。若い人が良く感じってくれるものを出していける、ものづくりの業界の中で就職検討へのファーストアクションが生まれる活動への支援があっても良いと思う。

#### ○湯野川委員

- 人材確保について

人材難だということは東京でも言われており、今日の資料のアンケート結果に人材募集の状況が書いてあったが、このアンケートをもう1歩進めて、1つの会社からどんな職種が欲しいのかとかどんな業種であるのかというところまで調べると、もしかしたら定住企業立地推進課の方で実施しているIターンUターンの募集と連携できるのではないかと思った。そういった情報があると、IターンUターン希望者が、自分たちは島根に来て何ができるのかというのが具体化するのではないと思う。

今、東京で非常に収入が少なくて困っている方も多いが、そんなに仕事ができない方ばかりではないと思っている。実際に、我々はIT企業なので、どうしても面接するとITの技術がない方はお断りしているが、ワープロとかITは普通に使える、そういうリテラシーを持った方で、DX人材として通用しそうな方もいる。島根県内ではいないかもしれないが、東京にはそのような方がたくさんいると思う。そういったところを共有して一緒に活動できるようにすると、より具体的に歯車がかみ合った支援事業になると思った。是非そういった取り組みをしていただければと思う。

#### ○金崎委員

- アクションプランについて

今いろいろと我々が思うことすべてやっただいていてという感じがする。あとは補助額を増やして欲しいということと手続を簡単にしたいということがある。

- 昨今の製造業の状況について

今我々取り巻く環境は非常に厳しい。私は何十年もこういう立場にいるが、本当に今まで経験したことないような厳しさである。

要因の1つは、報道されている世界の戦争による物価やエネルギー価格の高騰である。これが一番響いている。我々の事業では非常に多くの電力を使っているが、電気価格が予想のつかないような値上がりをしており、価格反映ができない。それはなぜか。やはり下請であるから。一方では、大企業が過去最高の利益だとかボーナス支給額が最高額だということが報道されている。我々からしたら違う世界にいるような感じである。そうした中で、人材確保なんてとてもできないから事業を縮小するしかない。そうしないと生き残れない。このような実態があるから今非常に厳しい。これからどのようにして会社を守り、従業員を守っていくかということが今本当に切羽詰まっている。これが現在の東出雲町の製造業での現状だと思う。

今いろいろと支援体制をとっておられますが、非常にこれは助かっている。このような部分については、我々だけでは解決できない。そのようなところで、オール松江、オール島根で一丸となり支援のほどをお願いしたい。

#### ○内藤委員

- 和菓子製造の現状

松江の和菓子屋もがんばってはいるが、やはり物価高騰の影響が大きく、なかなか利益を上げることが非常に難しい状態である。

- 人材確保について

菓子製造業ではかなり手仕事が多いので、なかなか機械化につながらない。そのような中で、どんどん社員も高齢化しており、新しい人材が欲しいという状況にある。和菓子製造はやはり伝統産業であり従事したいと思う若者もいると思う。そうした方に来ていただくために、企業の紹介、例えばご意見にもありました企業の紹介ビデオを作るなどをして、給料は高くないがやりがいがある会社であるということを上手にアピールできたら、面白い業界だと思ってくださる方が出てくるのではないかなと思う。そういうところで、何かお力添えがあれば伝統産業も続いていくのではないかなと思っている。

#### ○福頼委員

- 次期アクションプランについて

結論から言うと支援制度が大きく変わらず、よかったというか安心というか、ありがたいと思ったところである。

このアクションプランが今回第5期ということで、この期間振り返ると、自社においてもその時その時で課題があり、その課題というのは一貫したものもあるが、時期によって違ったものがあつたように思う。そんな中で、この松江市の補助制度、例えば、設備導入支援があり人材育成支援が

あり販路開拓支援がある、ということを入念に入れておくと、こんな時に使えるとか、こうなったらこれがいけるとかが思い浮かべることができ、支えになっていると感じている。また毎年制度を微調整してもらいより使いやすくなったり対象範囲を広げてもらったり、新しい分野にも項目を作ってもらったりと、良い支援内容であったというのが感想である。

#### ○山中委員

- 次期アクションプランについて

アクションプランにつきましては、皆さん利用に慣れてきておられるという点から大きく変える必要はないと思っている。

- IT化DX化について

IT化DX化についてお話があったが、決してDX化というのは難しいものではない。いろんな形はあるが、売上げが上がる・利益がでる・仕事が減るとというのがそもそものDXの目的である。皆さん、何かをデジタル化にしなければいけないということが先行してしまうため、DX化がなかなか進んでいない実態がある。

今回の資料の53ページにデジタル化推進への取り組みがあるが、これにおいては、IT活用アドバイザーの方がそういう意識を持って話された方が良いと思う。経営者の方は若い方もおられるが、私も含めてどうしても歳を重ねられている方が多い。ITとかデジタルトランスフォーメーションとか横文字が嫌われる傾向があるので、もう少しこのIT活用アドバイザーの方がわかりやすく、日本語で、現場に合った形で進められると良い。また、そういうことをアピールされたら良いと思う。IT活用アドバイザーの方は決してITを押売する方ではない。そこにまず勘違いがあり、なかなかIT化が進まないのではないかと思う。

また、業務改善は、先ほどの話でもあったがデジタルだけでやれるというものではなく、やはり最終的には人がやることである。そのため、会社の経営者の方が現場の方と一緒に、どうすべきか考えられる場を整える方が、具体的なIT投資、例えば2分の1の経費を補助するというよりも、効果が高いのではないかと考えている。ただ、少しずつではあるが、市内のDX化・デジタル化が進んできている。これからもまた継続して支援いただければ、もう少し進んでいくのではないかと思う。

- 人材確保について

採用につきましては、これはどの業界でも同じであり、首都圏と地方での給与の差はとんでもないことになっている。そのため、松江市の方も一緒に企業の魅力をもう一度考えて、先ほどもあったように、首都圏におられる方や学生さんが就職するときにチョイスしていただけるような形でアピールできたら良いと思っている。こちらの方も支援をよろしくお願いいたします。

#### ○壽山委員

- 人材確保について

頂いた資料の 25 ページ図 3 の産業分類別の従業者数推移についてであるが、この表の右側に総数は令和 3 年から 7,000 人を超える従業員数となっていると書いてあるが、この中に外国人実習生や労働者の方が何人で何%いるのか、これは先ほど 10%程度とおっしゃっておられたので、それ位なのだろうと思うが、気になるのは食料品製造が令和 4 年で下がっていることである。我々も募集を出しているが、なかなか応募が来ないので、なぜだろうといつも悩んでいる。この表を見ると、食料品製造になかなか人が来ないのは給料が安いからなのかという風に感じているところである。

人材確保については先ほどからいろいろとお話があったが、我々の会社でも人手不足というのは非常に大きな問題である。前回お話したと思うが、当社は外国人実習生が現在 15 名おり、今月末面接をしてまたベトナムから 4 名増やそうという計画をしている。外国人実習生を入れているのは様々な媒体を通して人材募集をしても応募が来ないからである。仕方がないと思ってまた外国人の方に来ていただこうかなと思っているが、2027 年に外国人実習生の制度が新しくなることについて非常に不安に思っているところである。

人材不足に対応するため、様々な人材の募集方法を調べているところであるが、例えば、人材紹介サービス。今年は 3 名を新たに採用したが、皆さんご存じのように人材紹介会社には当然高い紹介料を支払う必要がある。人材を採用するのにも大きなコストがかかるようになってきているのが現状である。今回のアクションプランの改定で、人材確保についてどのような補助金を考えておられるのか楽しみにしていたがこのようなことに補助が出るものがあまりなかった。

人材がいらないから省力化するという話も分かるが、我々製造業はどうしても手作業も多く、やはり人が必要なため、人材採用のためのコスト高騰が負担となっていると強く思っている。

- 販路開拓支援について

展示会の出展事業補助金については、当社もよく利用させていただいており助かっている。お話の中にありました 2024 問題に直面し、今非常に売上げが減少している。当社では関東方面に非常に力を入れており、関東方面の売上げが非常に厳しくなっている。関東が魅力的な市場であるため、やはり展示会にどんどん出展して販路を開拓していく必要があると感じている。

- 設備導入支援について

設備導入支援補助金については、こちらも非常によく活用させていただいている。設備導入については先ほども少しお話があったが、補助金額をもう少し高くしていただくと、もっと助かるという思いがある。そういう要望をさせていただきたい。

## 6. 所管課等

松江市産業経済部ものづくり産業支援センター

電話 : 60-7101